

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

保護者・生徒から、「入ってよかったと思える学校」、地域社会からは「信頼出来る学校、頼りになる学校」となることをめざす。
 そのため、総合学科の特性を生かし、多様な学び、主体的な学びを通して学習意欲を高めるとともに、キャリア発達の支援を通じて個々の能力・適性を伸ばし、地域社会との連携を深め、時代や社会の要請に応えることができるよう「生きる力」を育む。
 また、創立の経緯、そして「中国帰国生徒及び外国人生徒入学者選抜」実施校としての実績を踏まえ、多面的な人権教育を展開し、人が繋がることの大切さ、素晴らしさに気づかせ、「豊かな人間性」を育む。

2 中期的目標

(1) 確かな学力を育む・・・総合学科の特色を生かし、自ら考え自ら学ぶ「確かな学力」をはぐくむ。

- 新学習指導要領の趣旨を踏まえるとともに、総合学科の特色を生かした教育課程を編成し個に応じたきめ細かな教育活動を展開する。
 - ・習熟度別少人数授業の実施、多様な選択科目の開設により基礎・基本の学力の定着を図る。
 - ・必修履修、共通履修そして選択履修科目のバランス良い履修、進路実現をめざした履修が可能となるようカリキュラムを編成しガイダンスに努める。
- 学習環境を整え、よりよい学びの姿勢を追求する。
- 授業力向上に取り組む。
 - ・経験豊富な教員の大量退職、初任者の増加を踏まえ、教員相互の授業見学の実施や研究協議などを通し、教員の授業力の向上を図る。
 - ・授業アンケートを活用した授業力向上の取組みについて研究する。※授業アンケートを活用し授業改善について年2回の研究協議を定着させる。
- ICT を活用した授業の推進
 - ・学習効果を高めるため、ICT 機器を積極的に活用するとともに、生徒自身のICT活用能力を高め、プレゼンテーション能力をより一層高める。
 ※ 3年後には、座学担当の3分の2の教員がICT機器を活用するよう取組みを進める。

(2) 「志」や「夢」を育む・・・主体的な社会の形成者となるべく、「志」や「夢」をはぐくむとともに、自主的自律的態度を養う。

- キャリア発達を支援する体制と指導計画の充実
 - ・「社会への扉」や「課題研究」の取組みの充実を図るとともに、「キャリア教育支援体制整備事業」を活用し就職・進学双方の進路実現を図る。
 ※昨年度実現した就職一次試験での内定率を75%超え、就職率100%を定着させる。進学面では、休業中のセミナー(補習)に力を入れ、これまでよりハイレベルの大学(関大等)への合格をめざす。
- 人権意識、規範意識を高める。
 - ・体験的学習など、多様かつ多面的な人権教育を進める。その際、多数の外国籍生徒が共に学ぶ学校として、これらの生徒の支援に努めるとともに、多文化共生教育を推進する。
 - ・一人ひとりを大切にする生徒指導を実践、生徒理解をもとに規律・規範意識を確立し遅刻者の減少に力を入れる。平成26年までの3年間で遅刻者数を半減させた実績を踏まえ、さらなる遅刻者減をめざした取組みについて校内議論を深め、取組み体制の充実をはかる。
- 生徒集団づくりや生徒主体の活動を推進する。
 - ・生徒の自主的グループ活動等を行えるよう環境整備を行い、人がつながることの大切さ、触れ合うことの大切さを学ばせる。
 - ・部活動の活性化と生徒委員会活動を充実させ、生徒相互啓発による教育効果を高める。 ※3年後には、部活動の参加率を6割台にのせる。
 - ・スピーチ活動やプレゼン活動を積極的に取り入れ、生徒の対人関係能力を高める。
- 教員自身の能力を高め、生徒・保護者の多様なニーズに応えることができるよう、自己研鑽、人材育成に努める。
 - ・平均年齢が30歳台であることを踏まえ、若さとエネルギーに満ちた行動力を生かせるよう、経験豊富な先輩教員による授業、担任や分掌業務についての指導、OJTを通じて、教師力の向上を図る。

(3) 保護者や地域との連携。開かれた学校づくりと広報活動の充実。

- 家庭や地域との連携・協力体制を充実させ、生徒の自立を支援する。
 - ・保護者とは懇談会だけでなく密に連絡を取り合い、生活指導や進路指導・学習指導など多面的な指導について連携を図る。
 - ・中学校との連携を充実させ、中学校の取組みを高校でも生かせるよう連携を深め継続的な指導を展開する。
- 総合学科の特色や本校の指導内容など、保護者や中学生への情報提供に努める。
 - ・授業公開、体験入学に取組みアンケート等をもとに授業改善に取り組み中学への出前授業も行う。※3年後、体験授業参加者の半数の受験をめざす。
 - ・定期的に中学校との情報交換を行い、本校の取組みを説明し、進学説明に向かう。その際、入学者選抜制度の改編についても丁寧な説明を行う。
- その他関係機関との連携
 - ・地域教育協議会に積極的に参加し、地域の子どもたちを協力しあいながら育てていく。
 - ・選択科目や部活動などで他の施設・機関と相互に連絡を取り合い、活動の活性化に向けた取組みを展開する。
 - ・近隣の大学との授業交流、キャリア支援交流等に関し、その可能性について意見交換を開始する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○第1学年(33期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9割以上の項目で32期より肯定度がアップ。 ・授業等については、進路・生き方を考える機会、命の大切さ、人権が上位を占める。「授業見学に他の先生が来る」が65%に急上昇。授業改善74%も急上昇。 <p>○第2学年(32期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1クラス増の影響か、回答も分散し全体として肯定率が少し低めになっている。 ・その一方で、生徒指導、マナーの遵守等については「実行できた」感が高い ・とりわけ「先生は話を聞いてくれる」の項目の値が、前年度を超えてぬきんでていることは、日頃から教員が生徒にきめ細かに対応している結果だと思う。 <p>○第3学年(31期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ全項目で30期より肯定度がアップ。「学校が楽しい」が79%、「総合学科で学んでよかった」が86%。「悩みや相談に親身になってくれる先生がいる」が77%と高い。 ○全体として ・「学校が楽しい」、「特色ある学校」が定着。生徒指導の理解・マナー意識が向上。 	<p>■第1回 5月27日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生徒会行事、ボランティア活動について ・近年、防災体制の整備が課題となっている中で、教育の中身として、共に生きる力を育み、子どもを含め地域の人と助け合う意識を高めて欲しい。また、災害時には、応援団組織の実践が集団を規律的に動かすという意味でいざという時に役立つと思う。通訳ボランティアもきっと力になるだろう <p>■第2回 10月14日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業改善について ・タブレット端末を使ったグループ学習に非常に興味を湧いた。生徒たちもワークショップに慣れてくると動きがよくなる。そこまでたどり着くのも成長の糧になる。それが社会に出た時の力になる。「体験は人を育てる」もの。 ・オアシスの通訳ボランティアは素晴らしい。進路先にもしっかりと伝えて欲しい。 <p>■第3回 平成28年1月25日(月)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校教育自己診断結果等について ・自己診断結果は概ね良好。今後は、生徒の意見をくみ取りそれが実現したと実感できるような取組みを期待する。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 「確かな学力」を育む	(1) 本校がめざす「学力」の問い直し。 本校のこれまでの実践を振り返るとともに、変化する社会を見据え、今後本校がめざすべき「確かな学力」について、その定義を明らかにし、教職員の共通理解のもと、より一層の学力向上に繋げる。	ア. 総合学科八尾北高校がめざす「学力」について共通理解を進める。そのため ①「将来構想委員会」の下に「学力向上」プロジェクトチームを新規に設置する。 ②教育センターや有識者等に助言を戴き、PTで府内外の取組みを鋭意リサーチする。 ③有識者をアドバイザーとして定期的に招き、PTにおいて、また、学力向上に向けた全教職員対象の研修等を通じ組織力を高める。	①プロジェクトチーム（以下 PT）の開催回数 ②PTの取組みテーマに関するリサーチ数（教育活動全般を対象）。教科・科目、行事、生徒会、ボランティア等、10本 ③有識者等によるアドバイス回数、研修回数等。	①PT会議は親会議を含めて6回開催。(○) ②総合学科全国研究大会への参加をはじめ他府県の実践、また府内の総合学科の実践を収集中(教科・科目、キャリア教育)12本。そして、授業で総合学科間での生徒交流を実施。(○) ③校内研修は、研究授業協議1回、行事研修1回。学力向上研修2回。(○)
	(2) 「わかる授業、学びとる授業」をめざしたよりよい授業の追求	イ. 上記PTを活用しICT機器の活用、グループ学習に加え、探求・発表活動のモデル授業を実施しノウハウを蓄積していく。そのための機器や教材の整備に努める ウ. 上記取組みを定期的に会議等で全体化し、公開授業等を活用し、モデル授業について検証を行う。	①収集した授業実践事例数。(国、社、理、情報等他教科併せて5本) ①モデル授業の実施回数。また、生徒対象にアンケートを実施。学力向上の実感、肯定率66%をめざす。	①新たな授業の取組は、グループ学習を中心に、国語(詩の創作)、地理(タブレット活用)、理科(科学実験2本)、情報(知的財産権学習)で既に実施。「産社と人間」等で6本(○) ①上記モデル授業は教科内、PTでも議論し、モデル事業を6回実施。学力向上の実感の計り方に関し、調査方法を議論中。(○)
2. 「世」や「郷」をよみこむ	(1) キャリア教育の充実 ア. 進路実現に向けた意識の醸成。 イ. 進路突破力の獲得 ウ. 自己実現を図るための企業連携	ア. 入学時からの系統的な取組みによる進路実現に向けた意識を醸成。 ①「社会への扉」の系統的实施と今日の状況を踏まえたモデル教材の作成、活用。 ②「社会への扉」による進路情報の提供、リサーチ活動による主体的な進路情報の獲得 ③必要な時に必要な進路情報の適切な提供 イ. 社会人として必要とされる社会人基礎力の獲得と進路実現に向けた個に応じた支援の充実。 ①「社会への扉」、「課題研究」の充実と、発表力、プレゼンテーション能力の育成 ②進学、資格取得をめざした「補習」の充実。 ③一般入試を睨み校外模試への参加の促進。 ④就職、進学面接の強化・・・「面接個別カルテ」の作成と効果的活用。 ウ. 地元企業等と連携した取組み ①求人およびインターンシップの拡充をめざした事業所の開拓。また、応募前職場見学を指導の機会として有効に活用。	①モデル教材の作成本数。 ②進路情報の提供に関し、学校教育自己診断の数値を3%上げる。 ③休業中のガイダンス室利用の希望に即した開放回数。 ①「課題研究発表大会」で全生徒が無原稿でプレゼン発表。教科でディベート実施 ②-1 セミナー補習の定期開催をめざし、補習回数と参加人数を少しでも増やす。 ②-2 英検等受験者の50名超えを定着させる。 ③ 校外模試参加者の年間200名超えを定着させる。 ④ 就職決定率最終100%を維持 大学進学決定率90%以上維持。 医療系専門学校決定率90%以上維持。	①教材6本。宿泊研修での研修メニューを皮切りに、他校の実践を参考に、有識者の意見を聞き「社会への扉」の内容を大幅リニューアル。(○) ③進路情報提供、昨年64.7%→86.8%(◎) ③休業中のみならず、考査前には土日、正月も3日から登校し、ガクソ部で新たに設置した自習スペースは11月から毎日活用。(◎) ①「課題研究発表大会」では、全生徒が読み原稿なしで発表。また、今年は1、2年生の代表も発表に参加。中学校の先生方からは、生徒の発表に「ここまで立派に成長するとは感動的！」との言葉も。(◎) ② 補習は、夏から英数週2回実施。3年生は12月から大学別対策ゼミへ。 昼休みALTによる講座を実施。英検受験等への意識を高めた。英検等受験55名(○) ③ 校外模試参加者は年間134名(△)。 ④ 就職は1次で85%、最終100%。大学進学決定率は95%。近大合格延べ11名(昨年0)(◎)。関大合格2名は初。また宅浪で薬学に合格(◎) 医療系は80%(△)。
	(2) 人権意識を高め、また、支援の充実を図る。 工. 多様な人権教育を進め豊かな人権意識の高揚を図る オ. 特別な支援の必要な生徒への対応	工・人権教育担当者会議を中心に人権教育の効果的な取組みを実施。その際、 ①府の「安全安心事業」を活用する。 ②また、全府的に初任者が増えていることを踏まえ、校内、校外発信に努める。 オ・人権配慮の必要な生徒に対し支援を行う	工-① 府の「安全安心」事業と連携した取組み回数。 工-② 発信件数を昨年目標4件から今年は6件を目標とする。 オ 支援の具体的状況、当該生徒の満足度	①一人あたり約4社を訪問。加えて新たに中河内地区中小企業同友会の交流会にも参加、求人だけでなく学校実践の紹介も(○) ②③ インターンシップは地下鉄通訳を入れると40人超え。応募前見学は100%。(◎) 工① 安安事業に6回参加し成果を校内で。 ② 発信に関しては、安安事業、府立人研での発表に加えテレビ放映を通し「男女共生教育」、「野宿生活者の人権」、「在日外国人教育」について関西圏に発信。また全国版・地方版の新聞でも掲載。発信6件(◎)。オ 支援体制を整備し、安全環境を維持(◎)。
	(3) 規範意識の醸成と生徒支援体制の充実 カ. 生徒指導の充実 キ. 個に応じた指導・支援の充実	カ・職員全員での登校指導等に加え、遅刻指導、自転車マナー指導に力を入れる。また、朝の見守り、規則正しい習慣の定着をめざした朝SHRの次年度実施に向け種々の環境整備を行う。 キ・相談しやすい環境を整備するとともに、全学年主任連絡会で常時情報交換を行い、必要に応じて相談係と連携し、都度「ケース会議」を開催し対応し、対応事例集としてまとめる。	①遅刻件数年間3500件未満をめざす。 ②朝SHRの次年度実施の実現。 ①自己診断項目の教育相談に関する数値の70%超えをめざす。 ②事例集を成果物として蓄積作成。	①年度末3650件、取組みは前進。(○) ②朝SHRについては、全校的な議論を行い、登校指導との役割調整が授業展開や人的体制上、難しいことが分かり継続。(○) ① 自己診断項目の教育に関する数値が昨年52.3%が、本年75.1%にアップ(◎)。 ② 逐次記録を整理し、まとめている。(○)
	(4) 集団への帰属意識の向上と自主活動推進 ク. 集団行動、仲間づくりとしての行事、部活動活性化 ケ. 生徒会を中心に委員会活動を実施	ク①体育祭、文化祭行事を活用した生徒の自主的自律的運営能力の育成。 ②生徒会や学年でキャンペーン等による部活動の活性化 ケ・生徒会を中心とした各種委員会等活動を活性化し、特に今年は校内外の清掃活動に力を入れ、伝統的活動にまで高める。	①自己診断の学校が楽しいを3%アップ 生徒会行事に対する生徒アンケートを実施。肯定率80%以上の定着をめざす。 ②部活動加入率の通年5割超えをめざす。 ①委員会活動の開催回数、開催内容の充実度	①自己診断、昨年度77%→79.1%(○)。生徒会アンケートは肯定率80%超。実行委員会は、出席率も高く活性化。そのことを受け、執行部体制2名増に(○)。 ② 部活動加入率は、学年により差があり、全校通年では40%(△)。 ① 委員会活動は、ビブリオバトルで活躍した図書委員会をはじめ、保健、文化、体育それぞれの委員会で開催回数・内容が増加充実。開催回数20回。出席率はほぼ完璧・量ともにカールアップ。執行部の増員も。(○)
3. 開かれた学校づくりの広域活動の充実	(1) 保護者との情報連携による成長支援 ア. 懇談会等を通じた情報・対応連携。	ア・年度当初早期の保護者懇談にて協力体制を構築し、長期欠席、成績不振、指導事案等必要に応じて家庭訪問や関係機関とも連携し、生徒の自己実現に向け取り組む。	ア-① 進級率98%以上をめざす ② 停学事案の1割減をめざす。特に校内事案を1桁台に。	① 進級率は、98.3%。(○) ② 今年度から化粧・装飾品指導を開始(◎) そのため、対教員事案が増加。停学は2月に多発し件数は20件に。(○)
	(2) 開かれた学校づくりと広報活動充実 イ. ホームページの充実 ウ. 中学校、地域、大学等との連携	イ・学校行事や生徒たちの様子、日程変更等の情報をHP、メルマガにて保護者に提供し、保護者の理解と協力の促進に繋げる。 ウ・入試制度の改編を踏まえ、地元の教育機関等との相互交流を図り本校の特色を発信。	イ-①メルマガ等の発行回数。 ②ホームページの更新を週1回以上。 ウ-①中学校が実施する進路希望調査の希望者数、入学者選抜志願者の増加	イ①メルマガは、行事等の連絡を含め73回発行。(○) ②ホームページはトップページをリニューアルするとともに週1回更新を実現。(○) ウ①直近希望調査では後期でも1.22倍、入試で1.1倍(◎)